

海賊船、炎上 ～堂ヶ島火祭り～

静岡県西伊豆町の堂ヶ島で開催される「堂ヶ島火祭り」は、西伊豆の夏を代表するイベントです。美しい夕景で知られる堂ヶ島の海を舞台に、地域に伝わる海賊退治の伝説を再現するこの祭りは、迫力ある演出と美しい景観が融合した、全国でも珍しい海上花火として多くの観光客を魅了しています。

～祭りの由来となった海賊伝説～

今からおよそ600年前、西伊豆の漁師であった吾作は、一味とともに海賊となり、村人たちを苦しめていました。ある夜、海賊たちが酒に酔い、ぐっすりと眠りこけている隙を狙って、怒りに燃える地元の若者たちが決起しました。若者たちは海賊船に火矢を放ち、見事に海賊たちを退治したと伝えられています。



～祭りの見どころ～

●手筒花火



堂ヶ島火祭りの見どころの一つが、勇壮な手筒花火です。花火師が抱えた竹製の手筒から勢いよく火柱が噴き上がり、夜空に向かって火の粉が舞い散る様子は圧巻。火の粉を浴びながらも堂々と花火を支える姿からは、伝統を受け継ぐ人々の心意気と迫力が伝わってきます。クライマックスには、手筒花火の底が抜けて激しい火柱が噴き出す「ハネ」と呼ばれる瞬間が訪れ、会場は大きな歓声に包まれます。

●海賊船征伐



最大の見どころは、夜の海上で行われる海賊船討伐の再現です。日が暮れ、堂ヶ島の海が漆黒に包まれる頃、会場には緊張感が漂います。やがて海賊船を討伐する船が出航していきます。討伐船から火矢が放たれると、船は瞬く間に炎に包まれます。燃え上がる船体、船から次々と打ち上がる花火、夜空に響く爆発音は圧巻の一言です。

<イベント概要>

日時：令和8年7月24日（金）18:00～21:00

場所：堂ヶ島公園（静岡県賀茂郡西伊豆町仁科2910-2）

アクセス：【バス】伊豆箱根鉄道修善寺駅から松崎行きで約70分/伊豆急下田駅から堂ヶ島行きで約60分
いずれも堂ヶ島バス停下車

【車】新東名高速道路長泉沼津ICから約70分

お問合せはこちら▶ 西伊豆町観光協会 0558-52-1268

TECH BEAT Shizuoka 2026 同時開催 静岡ウェルネス・フーズEXPO 2026

TECH BEAT Shizuoka 2026

静岡県内企業とスタートアップとの共創を促し、産業・地域を活性化するため、県と静岡銀行が中心となって開催する大規模商談イベント。

過去最大数のスタートアップが国内外から集結し、AI等の先進的な技術展示や商談会、日本を代表する有識者による各種セッションが多数開催されます。

地域の未来を担う学生や子どもが先端技術に親しめるような技術体験コーナーや、起業家マインドを育成する企画も用意されており、大人から子どもまで、幅広い世代におすすめのイベントです。



詳細はこちら▲



2026年

7月23日（木）
～25日（土）

会場：グランシップ

（JR東静岡駅徒歩5分）

静岡の現場力でAIは進化する。



TECH
BEAT Shizuoka 2026

静岡ウェルネス・フーズEXPO 2026

静岡発のフードテック・ウェルネスビジネスの創出を目指し、フードテックやウェルネス分野の先端技術を有する企業・団体が出展する商談イベント。

各企業の事業内容の展示やピッチが行われ、事業者間の交流やビジネスマッチングの機会となるイベントです。



詳細はこちら▲

静岡県アンテナコーナー「おいしず」のススメ



おいしず▼

JR秋葉原駅徒歩2分
CHABARA内
「日本百貨店
しょくひんかん」
千代田区神田練堀町8-2
(JR高架下)



楽天市場店▲

今月のオススメ商品は、「ふじのくに新商品セレクション2019」の金賞を受賞した「山のすめめ大根」(笑顔畑の山ちゃんファーム)です。山のす

めめ大根は、今までになかった、そのまま食べる・水戻し不要をコンセプトとした切り干し大根です。

とっても甘い品種の大根を真冬の寒さの中、無農薬で育て、一般的な切り干し大根の半以下にカットし天日干しで乾燥します。噛めば噛むほど甘みや旨味が口に広がるところから『山のすめめ大根』と名付けました。

編集後記

東京事務所に赴任して2年目となります。

赴任当初は、駅や街中を行き交う人の多さに圧倒される毎日でした。通勤時間帯の満員電車や、休日の繁華街の混雑には驚き、人混みの中を歩くだけでも疲れてしまったものです。しかし、東京での暮らしを続けるうちに、人の流れに合わせて歩くコツや、混雑を避ける時間帯を自然と覚えしました。今では、大勢の人が行き交う光景も東京らしい日常の一部として受け止められるようになり、人の多さに戸惑うことは少なくなりました。むしろ、多くの人が集まることで生まれる活気や多様な文化、豊富なイベントなど、東京ならではの魅力を感じる機会が増えています。東京の人の多さに慣れたことは、この街での生活に少しずつ馴染んできた証だと感じています。



総括主査
知久浩基